平成14年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

今 井 の 坂 道

「青梅市内には、各地にたくさんの坂道があります」と言えば、東青梅から東側の河辺町・野上町・新町・末広町などに住んでいる人たちからは、「ウッソー」という声が返って来そうです。これらの地区は、広大な武蔵野台地の西部に位置しており、緩やかに東方へ傾斜してはいますが、ほとんど平坦な土地なので、日常生活で坂道を見かけることはほとんどありません。

市域の東部では、ほぼ中央を東西に多摩川が流れ、また、永山丘陵から東方へは入間市へ向かう霞川が流れています。多摩川や霞川の両岸は、階段状の地形である河岸段丘になっています。そして、下位の段丘面と上位の段丘面をつなぐ道路は坂道となっています。このため、千ヶ瀬町や天ヶ瀬町、あるいは師岡町から今井までの山根通りの人々が青梅線の各駅へ向かう時には、必ず坂道を登らなければなりません。

市域の東部に位置する今井地区では、ほぼ中央を霞川が流れ、川の南側には比高5m前後の坂道が、多くの場所にあります。そして、その中のいくつかには、愛称が付けられていますので、その由来について紹介しましょう。

岩蔵街道にある七日市場の北側にある坂道は「観音坂」で、観音寺坂とも呼ばれています。由来は、坂を登ったすぐ西側にある築地さん宅は、古くからの屋号が「観音寺」で、その脇にあるからです。観音坂を下ったところで、霞川に架かるのは観音橋ですが、橋の名称も築地さん宅の屋号に由来しています。

今井小学校の東側で、貯水池の工事場から宮林さん宅の西脇を通り、石井ランドリーへ向かう緩やかな坂道は「宮林の坂」です。

道場橋から、まっすぐ南へ向かう坂道は「杉田の坂」です。南方へ進むと、街道の脇に杉田園があることに由来しています。杉田の坂から西へ分かれて、正福寺に向かう坂道は「寺坂」です。今井1丁目にある山根地区の人たちが、鎌倉時代に開かれた時宗の正福寺に向かうために通ったことに由来します。坂道を下ったところで、霞川に架かるのは「どうじょう道場橋」で
(裏面につづく)

す。橋の名称は正福寺に由来していますが、旧くは寺を道場とも呼んでいたからです。

今井市民センターの東側から、北方の別当橋へ向かう緩やかな坂道は「長坂」です。観音坂や杉田の坂などと比べて、高さはほとんど同じですが、距離が長く傾斜が緩やかなことが特色です。

ここでは、今井1丁目にある坂の愛称の由来について紹介しましたが、皆さんの近くにある坂道の愛称と、その由来について調べてみてはいかがでしょうか。

ところで、青梅市は約104平方kmの総面積です。この市域の広さは、東京都内では奥多摩町の約226平方km、八王子市の約188平方kmに次いで広い面積となっており、区部のうち最も広い世田谷区の面積が約55.8平方kmですから、世田谷区の約2倍の広さとなっています。青梅市域のうち、約66%は山地です。このため市内の山地部を通っている道路は、ほとんどが坂道となっています。坂道というよりも、山道といったほうがふさわしいかも知れません。

(文責 角田 清美)